

淡路人形会館(仮称)建築工事が始まる

安全祈願祭・起工式

淡路人形浄瑠璃を楽しんで
もらう拠点施設として、来年
春に完成予定の淡路人形会館
(仮称)の建設工事が始まり



▲なないろ館前の県有地、福良甲の建設予定地に建つ会館(完成予想図)

ました。2月3日、市と施工業者の五洋建設(本社・東京)は、工事の安全を願い、福良甲の建設予定地で、関係者約70人の出席のもと、安全祈願祭と起工式を行いました。



▲起工式であいさつする中田市長

同会館の建設は、総事業費5億7700万円、鉄筋コンクリート造3階建てで、1階は駐車場等、2階に上演舞台と約180席の客席などがあり、3階に総合練習場や楽屋を配置します。また、1000人収容可能な避難スペースを設け、地震や津波の

災害時に住民や観光客が安全に避難できる施設としても整備します。

中田市長は起工式で「観光拠点としての使命も果たしながら、500年の伝統を新しい斬新な会館で披露し、将来にむかって淡路人形浄瑠璃を発展させていく大きな使命がある」とあいさつしました。

子連れで来庁しやすい環境を整備

キッズソファなどを設置

市では、子育て世代がお出かけしやすい環境のため、図



▲子連れの来庁者が多い福祉課と緑総合窓口センターにはキッズソファを置きました

書館や公民館など15の公共施設のトイレにベビーカー・ベビシートを設置しました。

また、子連れの来庁者があつた際、目の届く範囲に子どもを待たせるスペースにと、キッズソファ等を整備しました。緑庁舎人口付近では、かつて空きスペースとなっていた区画を有効利用し、子どもが遊べる「ゆめらんコーナー」を開設。絵本やおもちゃを置き、子連れの来



▲市内で2か所目の整備となる「ゆめらんコーナー」

庁者が気軽に訪れ、手続きができるよう「おでかけ応援事業」の一環で整備しました。

進む保育所の耐震化 安全安心な施設充実

市では、小中学校の耐震化100%を平成20年度に達成し、現在、保育所の耐震化に取り組んでいます。昨年度より耐震化を進める5施設の公立保育所を調査して今年度から3年をかけて順次、工事を実施しています。

その最初の完成となった二宮保育所で1月24日、お披露目を兼ねて「ふれあい餅つき大会」が行われました。一部の屋根の鉄骨強度を補強し、保育室内や設備などを改修して綺麗に化粧直された施設を前に、園児と保護者会、地域の人が、昔ながらの石臼と杵で餅をついて、園内は、元気なかけ声と参加者たちの嬉しい笑顔に包まれていました。今後は、賀集保育所の工事が3月上旬に完成し、来年度以降は、ちどり保育所と北阿万保育所、倭文保育園の耐震化を進めていきます。



▲ふれあい餅つき大会(二宮保育所)

広報コンクール受賞 企画賞とまちづくり賞

兵庫県広報コンクールの広報紙部門で昨年12月発行の「広報南あわじ」が企画賞に輝き、併せて広報まちづくり賞を受賞しました。

広報では、行政情報だけでなく、何気ない話題、皆さまの笑顔や輝き、活動など様々なシーンを「お伝えする」情報紙として、制作してまいります。皆さまに愛される広報を目指し今後も努力いたします。



▲受賞した広報南あわじ12月号

ふるさと南あわじ応援寄附金

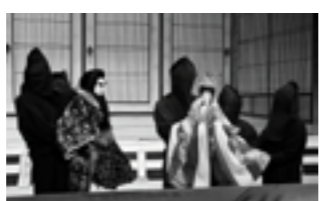
1224万円の寄付金

昨年104人より、ふるさと南あわじ応援寄附金として、1224万円の寄附金が寄せられました。寄附者の氏名を公表します。(順不同、敬称略、公表承諾者のみ)

ふるさと南あわじ応援寄附金 (2月16日現在)		
寄附状況の公表	件数	金額
南あわじ市内	382件	52,687,219円
市外(島内)	52件	7,201,000円
市外(島外)	230件	28,599,940円
合計	664件	88,488,159円

詳細は市のホームページに掲載しています

- 〔南あわじ市〕萩原重幸、水田弘治、服部達明、日々野満、鶴澤友路、松並ひろ子、西中英伸、正井良徳、川原栄、素川恒男、竹田宏樹、竹田千秋、賀集卓也、窪田純一、小林健司、秦孝一、橋田友孝、鈴木俊示、大森弘之、中西滋、中西英夫
- 〔洲本市〕田村昭治、馬詰和成、馬詰慶子、馬詰裕道
- 〔神戸市〕印部文夫、平野隆三
- 〔姫路市〕名定節、馬部一清
- 〔県外〕▽大阪府 奥野康人、齊藤弥生、菅井紀子、豊竹松香大夫、村上光功、中田大助、浅羽信允、浅羽信宏



「新人形会館建設を機に、淡路人形浄瑠璃が新しい飛躍の年を迎えることを期待します」などのメッセージも届きました。

- 浅羽廣美▽奈良県 松谷武、中田優介▽愛知県 荒内順子、瀧久人、瀧勇次▽神奈川県 浜崎祐司▽千葉県 阿部耕三▽ニューヨーク Sue Letter
- 〔氏名のみ公表〕坂東託次、松浦茂男、松崎候磨、齊藤賀大、西庄重次郎

淡路瓦をPRし、販路を開拓

淡路瓦売り出し隊

淡路瓦の需要拡大と販路開拓を目指し、市と淡路瓦工業組合で構成する「淡路瓦売り出し隊」が2月4日、歴史的な町並みや景観形成地区のある赤穂市と相生市、たつの市で淡路瓦をPRしました。

今年度は、これまで県内外の設計士や行政、伝建地区36か所を訪問。瓦の耐震性や施工例、屋根材以外の製品も

紹介し意見交換などを行いました。成果としては、昨年度に引き続き、2度目に訪問した豊岡市や福岡県八女市、うきは市の伝建地区などで淡路瓦を使用するといった方向性も出されました。

淡路瓦売り出し隊では、今後も様々な地域でPRを重ね、一過性で終わらないようにしていきます。



▲淡路瓦を説明する福原理事長(たつの市)

ふれあい市長室 鹿野農林水産大臣との意見交換会に出席

南あわじ市長 中田勝久

普内閣は、本年を「平成の開国元年」と捉え、明治、戦後に続く「第三の開国」として、貿易自由化や若者が参加する農業の再生により、日本人全体が世界に向かって活躍することを目指し積極的に推進すると閣議決定しました。

先日機会を得て、菅総理大臣が本部長の「食と農林漁業の再生推進本部」が主催する全国9地域代表市町村長との意見交換会へ近畿代表市長として参加してまいりました。



▲市町村長との意見交換(1月19日、農林水産省)

開国元年が示す環太平洋パートナーシップ(TPP)協定をはじめ、貿易自由化の動きは、日本農業にとって極めて大きな影響が予想され、当市においても、酪農、肉用牛を中心にした大規模な生産は、米の生産は9割減少、関連産業も含め7兆9千億円の生産減少、340万人の雇用が失われ、食料自給率が14%に低下するとされています。農業の多面的機能や食料安全保障をどう考えているのか非常に憂慮しております。南あわじ市議会におかれましては、対応に関する厳しい意見書を議決し、議長名で菅総理他3大臣に提出されました。

政府は、TPP協定に関する方針を今年6月に示そうとしています。一方、その進捗と併せて、本年6月に農業構造改革基本方針を、10月を目処に行動計画を策定するとしています。

私は、鹿野農林水産大臣に、農業大産地としての誇りと覚悟を述べ、頑張っている地域への投資、全国一律でない特徴ある事業への支援などを要請し、日本の農林水産業と地域の暮らしや雇用を守るための断固とした対策をお願いしたところであります。農政改革に対する要請を繰り返しますが、大産地として持続可能な農業を確立するために足腰の強い体質に変革しなければなりません。生産力及び生産性の向上、所得確保、販売・流通対策など、各分野を見直し、生産者や生産者団体、関係機関が一丸となった取り組みを行い、地域力の発揮へ挑戦してまいります。産地が危機感を持ち、自ら考え自ら行動する体制づくりに努力してまいりますので、格段のご尽力ご協力をお願いいたします。